



## 「いのちをつなぐ(冬を越す、いのちのルー)」

お早うございます。

冬の寒さがやってきました。あたりのようすも随分と夏や秋とは違っていています。小さな生き物は見かけなくなっただし、校庭の木々は葉を落とすまで枯れてしまったように見えます。そのせいで、これまで気がつかなかった、木の枝の高いところに引っかかったボールがよく目立って、気になりますね。

今日は「いのちをつなぐ」という話をします。

今、春、夏、秋、と過ぎて冬がやってきました。冬になった証拠はどんなところで見つけられるでしょうか。これまでに比べて、あたりの様子はどんなふうに変わってきたでしょう。

私は、最近こんなことがあって、「冬だなあ」と、しみじみ思いました。

- いつも自分の家から近くの駅まで自転車で通っています。暗くなると自動的にライトのつく自転車を使っているのですが、最近は毎日、朝からあたり前にライトがつきます。どうしてでしょう。故障ではありません。
- 今までと同じ時間なのにまだ真っ暗で、今朝は半分欠けた月や星がまだ明るく光って見えています。
- あたりはまだ真っ暗で、駅だけがこうこうと明るくて、なんだか怖いようです。
- 自動車の屋根やボンネットがすっかり凍りついてすぐには乗れないし、ドアもうまく開きません。まるで冷蔵庫に入れておいたようです。
- 川べりの道を自転車で通っているのですが、この間までは草が生い茂っていて川の流が見えませんでした。ところが、今日は河の流れがよく見えて水面に湯気みたいなものが上がっていました。なんだと思いますか。お湯が流れているわけではないのに、川の流れから、湯気みたいなものが見えるのは、寒いからかなあ。
- 駅のホームで電車を待っていると、おじさんもおばさんも、お兄さんもお姉さんもついこの間までの夏の服装ではなくなって、むくむくと洋服で太ってしまったようです。混んでくると身動きできないくらいにぎゅうぎゅうです。いつもは楽々4人座れるところに今は4人座るとぎゅうぎゅうで動けません。みんなが太ってしまったのでしょうか。そんなわけないですよ。

こんなふうに、冬になり、寒くなってきて生き物も見かけなくなりました。小さな生き物は、全部いなくなってしまったのでしょうか。クワガタも、カブトムシも、モンシロチョウも、アゲハも、テントウムシも、みんなみんないなくなってしまったのでしょうか。

わたしたち人間は、服をたくさん着込んだり、ストーブをつけたりして冬を乗り越えて来年にはまた春を迎えます。なんとか寒い冬を乗り越えて次の年も元気に生き続けます。

でも、他の生き物たちはどうしているのでしょうか。死んでしまったのでしょうか。

もし、死んでしまったのならモンシロチョウも、アゲハも、クワガタ虫ももう来年はいなくなってしまうよ。この世界からそういう小さな生き物がみんないなくなってしまうことになります。

でも、これまでも、これからもきっと春にはアゲハも飛んでいるでしょうし、モンシロチョウもいるはずです。私が子どもだったころにもアゲハはいたし、今もいる。今のアゲハと私の子どもの頃のアゲハは同じアゲハでしょうか。60歳のアゲハなんていそうもないですよ。そう、60年「いのちをつないで」子どもの子どもの子どもの……、と60回も繰り返して、今いる蝶は孫の孫の孫の……、なのでしょう。

ですから、寒さを避けて、きっとどっかにかくれて「冬越し」をしているのでしょう。

モンシロチョウも、アゲハチョウもそのほかの虫も、みんな校長先生が子どもの頃から、いやいや、もっともっと大昔からいますよね。一匹の蝶や虫は、1年しか生きなくても、代々その子ども達にいのちをつないでいるのです。いのちのリレーだね。そう、命をつないでいるのです。

もし今目の前にいるモンシロチョウをうっかり踏んで死なせてしまったら、その後にく何千何万の子ども達も消えてしまいます。

いろいろ生き物が冬の寒さを乗り越えて命をつなぐためにいろいろ工夫して備えている様子を、ちょっと探してみませんか。

校庭の桜も、ほかの木々も、よおく見ると枝の先の方にたくさんの目が少しずつ大きくなってきています。春の準備をしているのです。

生き物たちにとっては、寒い冬に備えるということは命がけです。皆さんの周り、桃五の校庭でも春の準備、命をつなぐ工夫をいろいろ見つけてみませんか……。

